

令和4年度 学校報告会

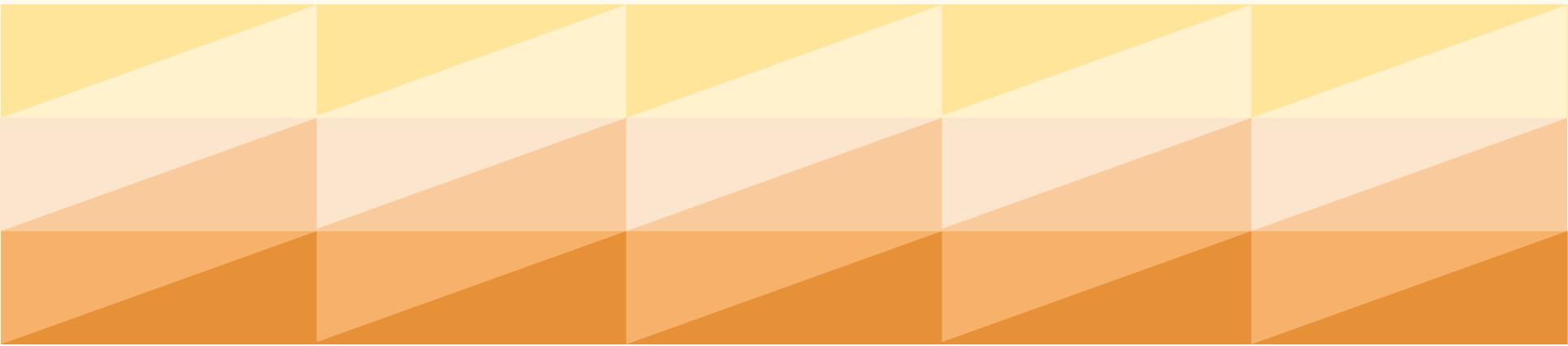
川崎市立南野川小学校 校長 野村 智

An illustration of a school building with a clock tower, a fence, and a clear sky with clouds. The building is light blue with many windows. The clock tower is in the center, featuring a clock face. To the left, there is a green fence. The sky is light blue with several white clouds. The foreground is a brownish ground.

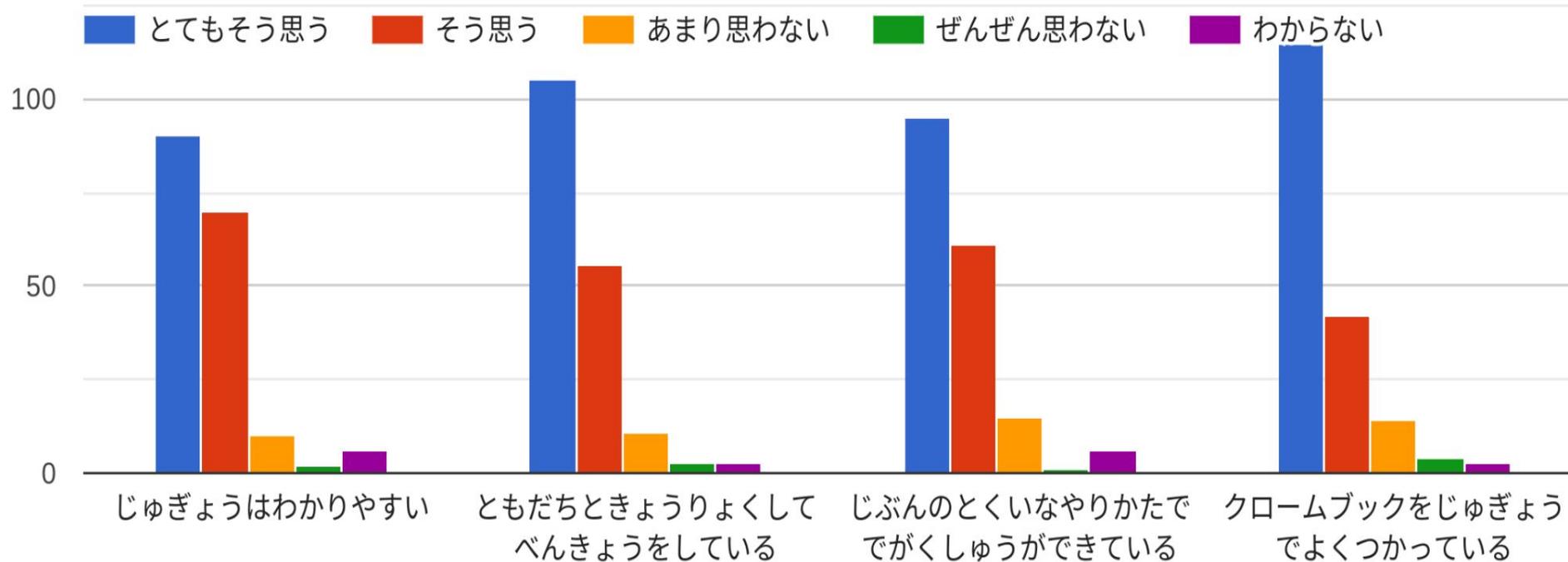
令和4年度 川崎市立南野川小学校 学校評価アンケート結果

—集計グラフおよび考察—

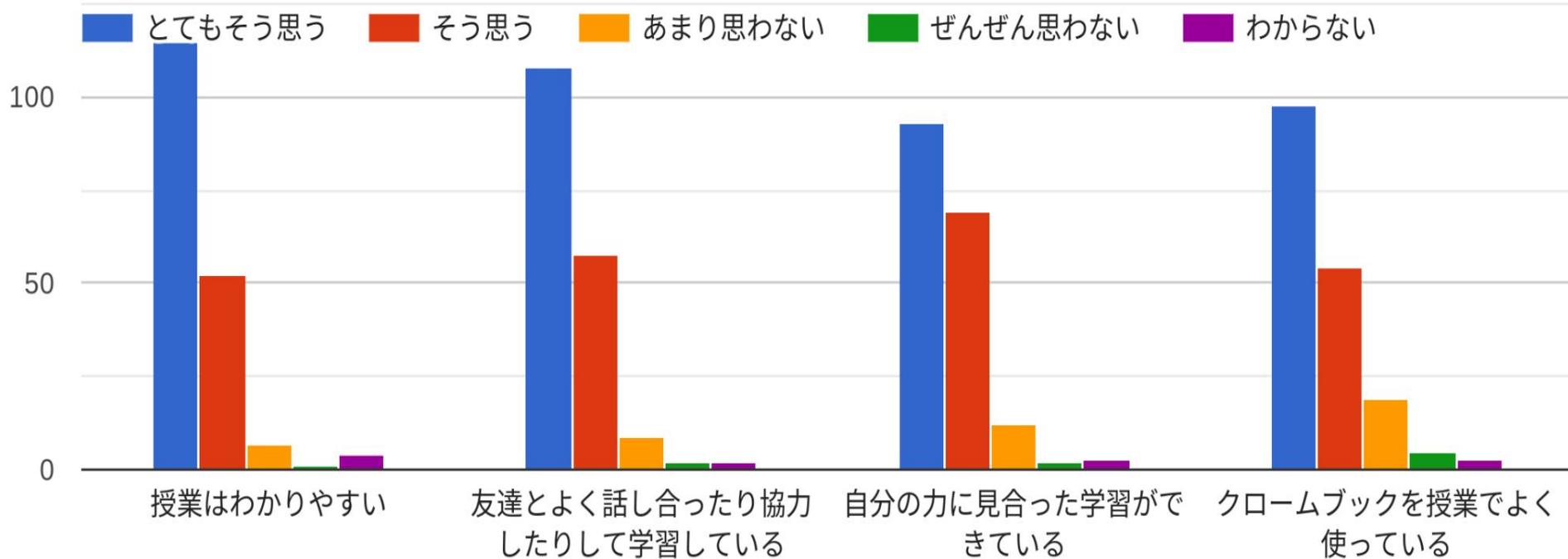
1. 確かな学力の育成について



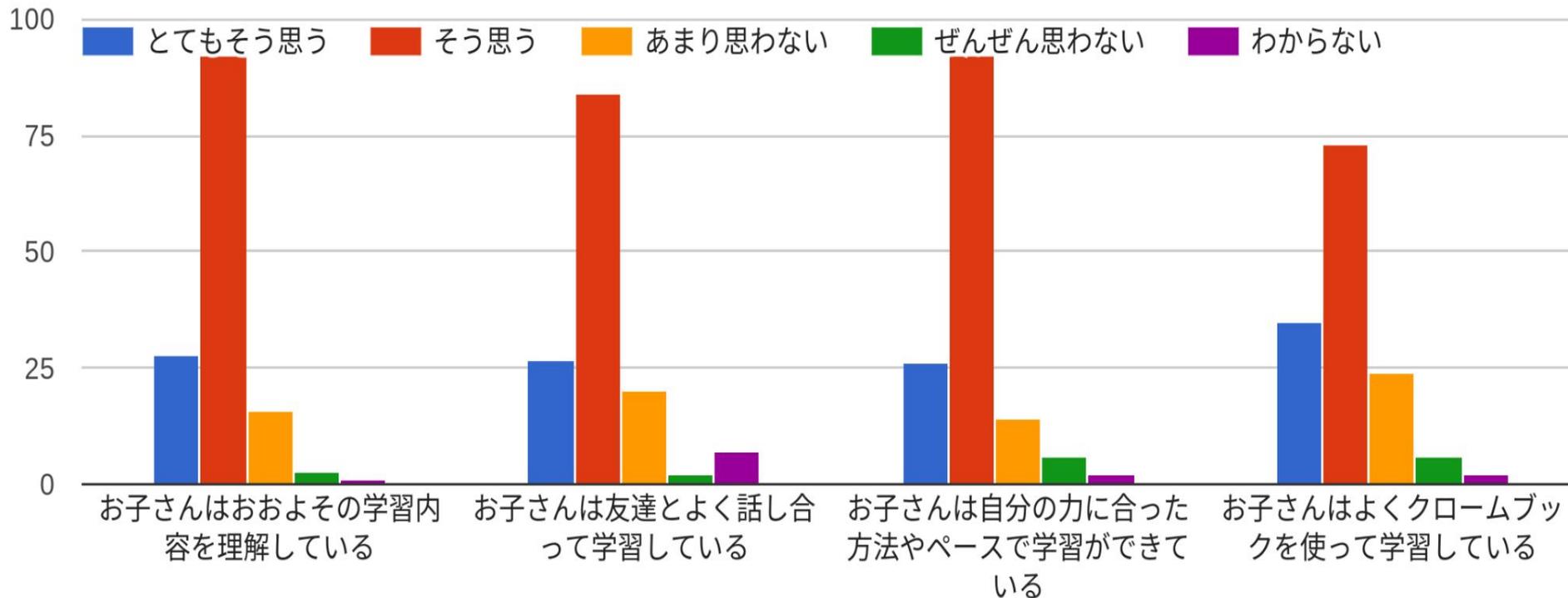
1 べんきょうについて(低学年)



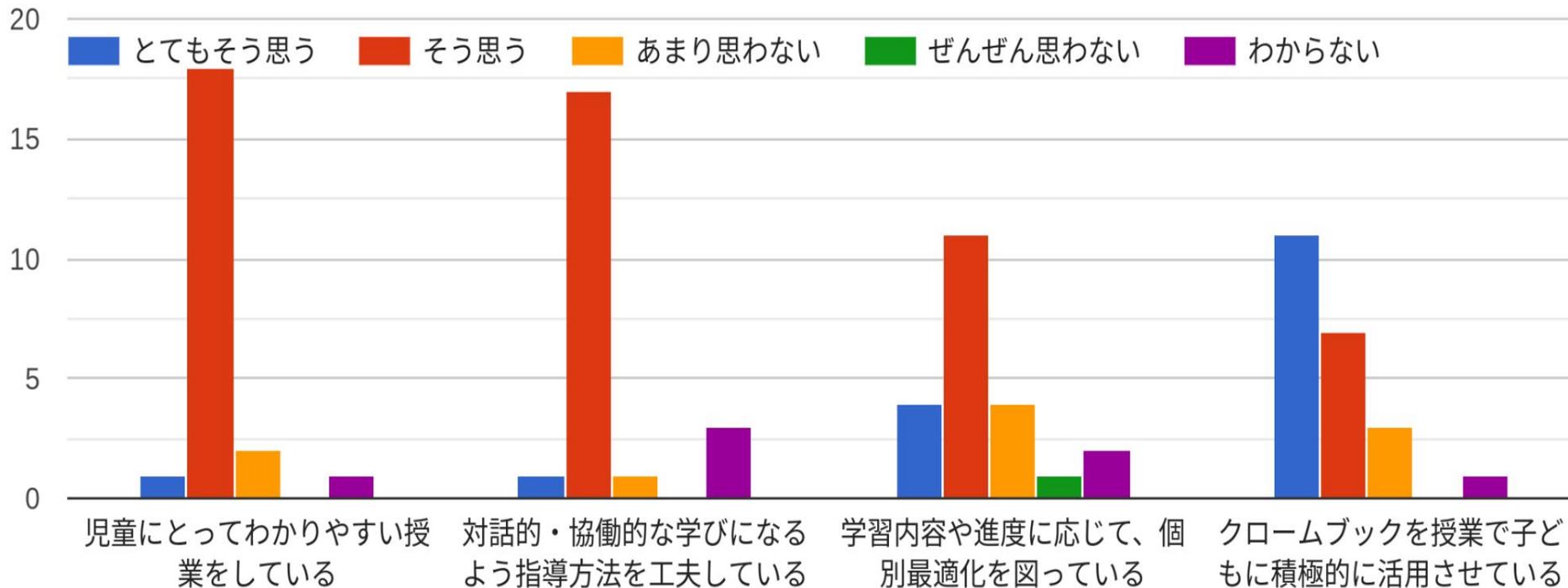
1 勉強について（高学年）



1 確かな学力の育成（保護者）



1. 確かな学力の育成（教職員）

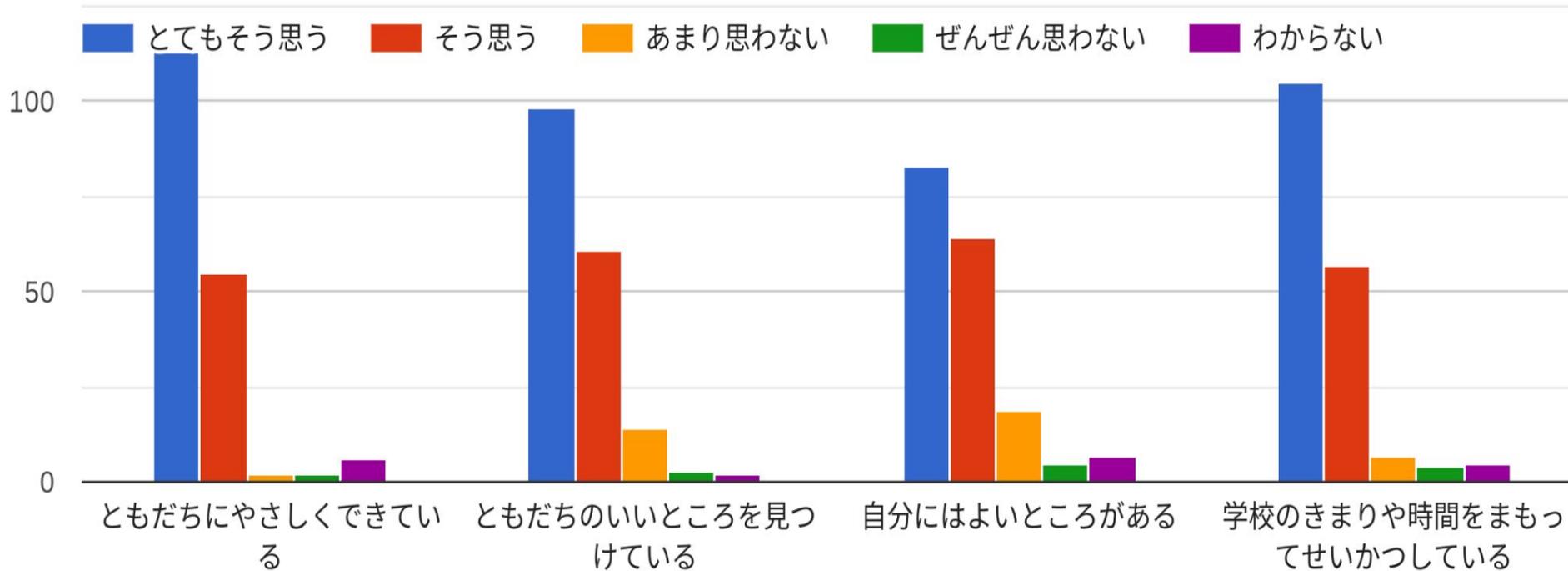


1. 確かな学力の育成についての考察

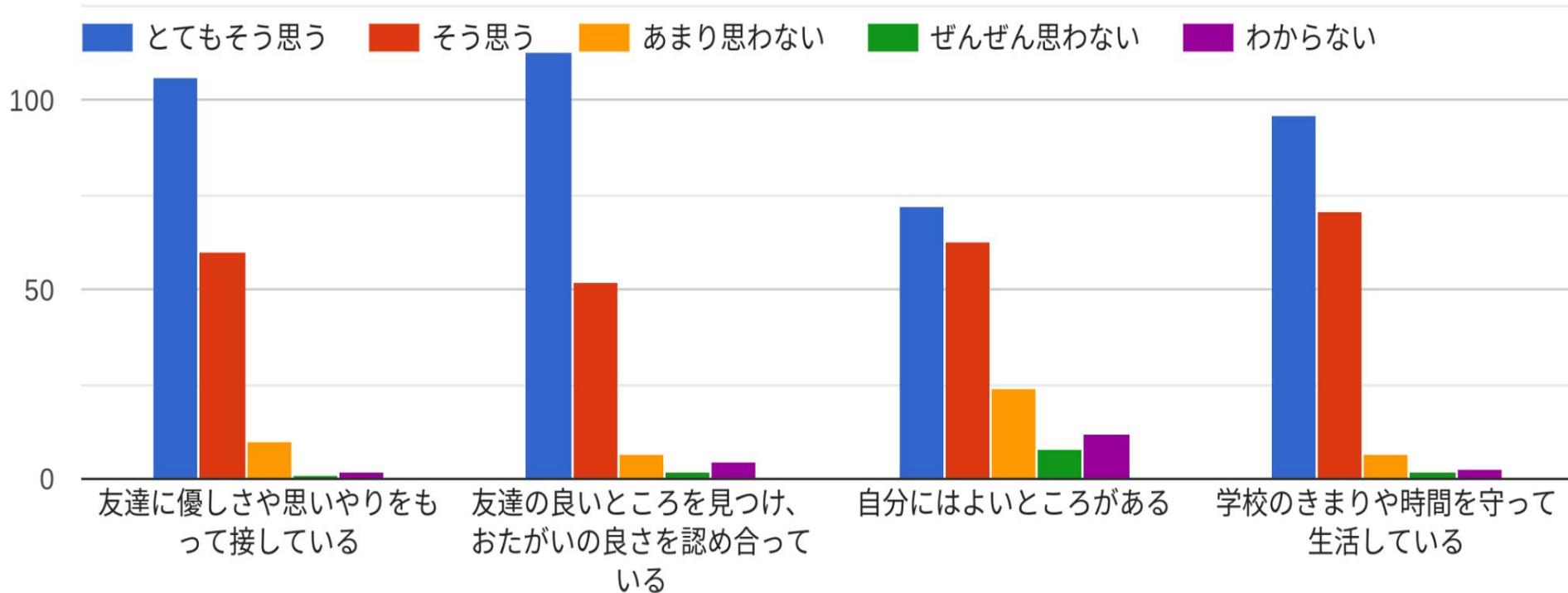
- ・学習内容の理解度や指導方法について、子ども・保護者・教師とも概ね肯定的な回答が多かった。この結果におごらず、研究研修を深めていきたい。
- ・否定的な意見については分析し、改善を図る必要がある。
- ・ク롬ブックの学習の活用は順調に進んでいる様子が伺える。来年度以降もミニ研修などの機会を設けて、研修を深めていきたい。

2. 児童理解・児童指導の充 実について

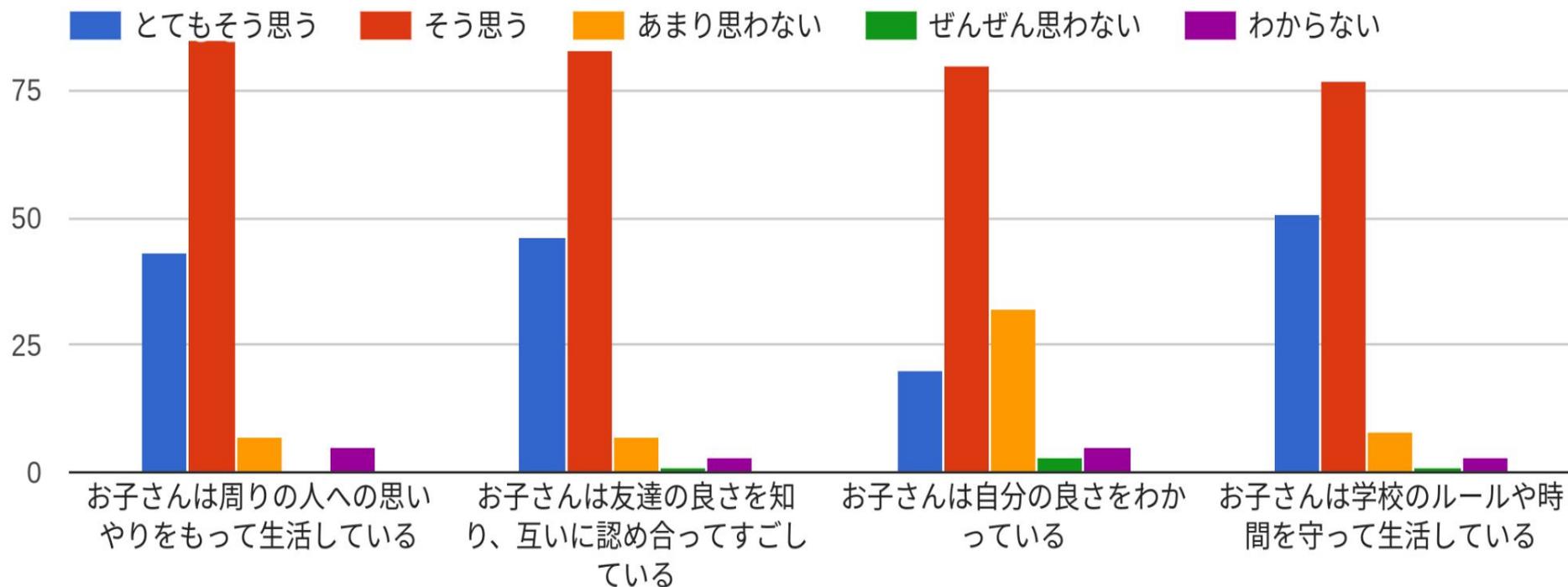
2 せいかつについて(低学年)



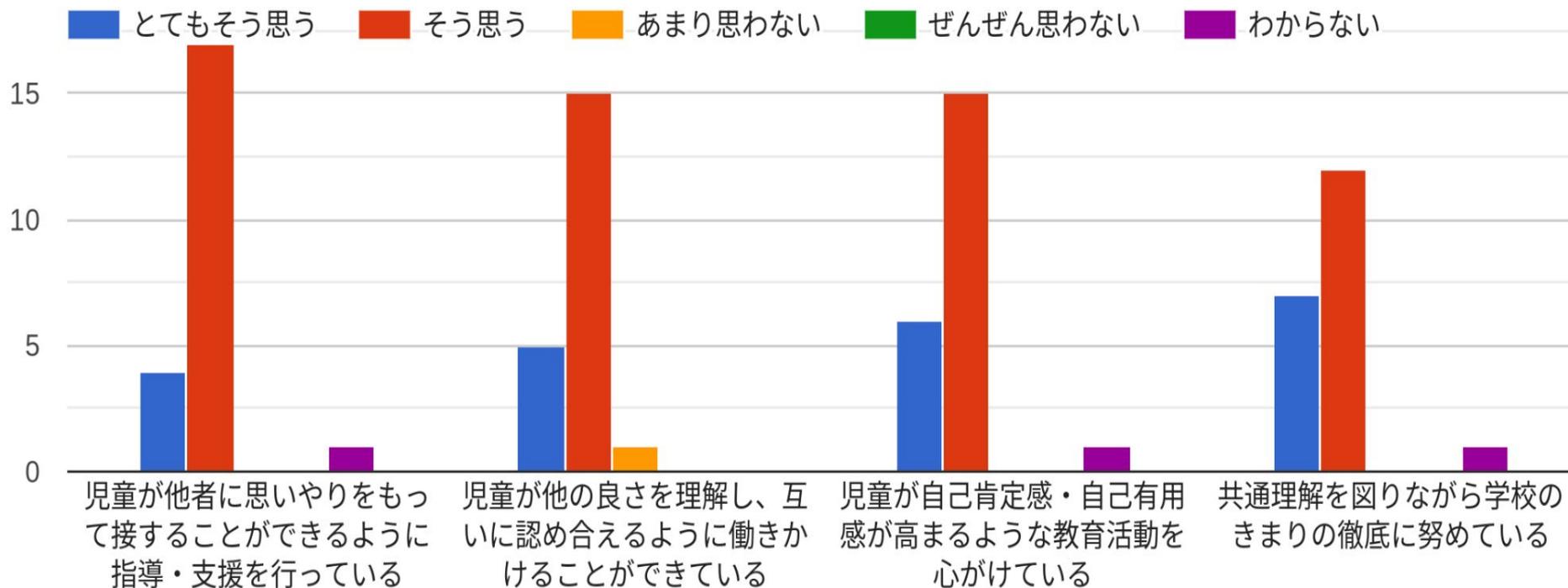
2 生活について（高学年）



2 児童指導の充実（保護者）



2. 児童理解・児童指導の充実（教職員）



2. 児童指導の充実についての考察

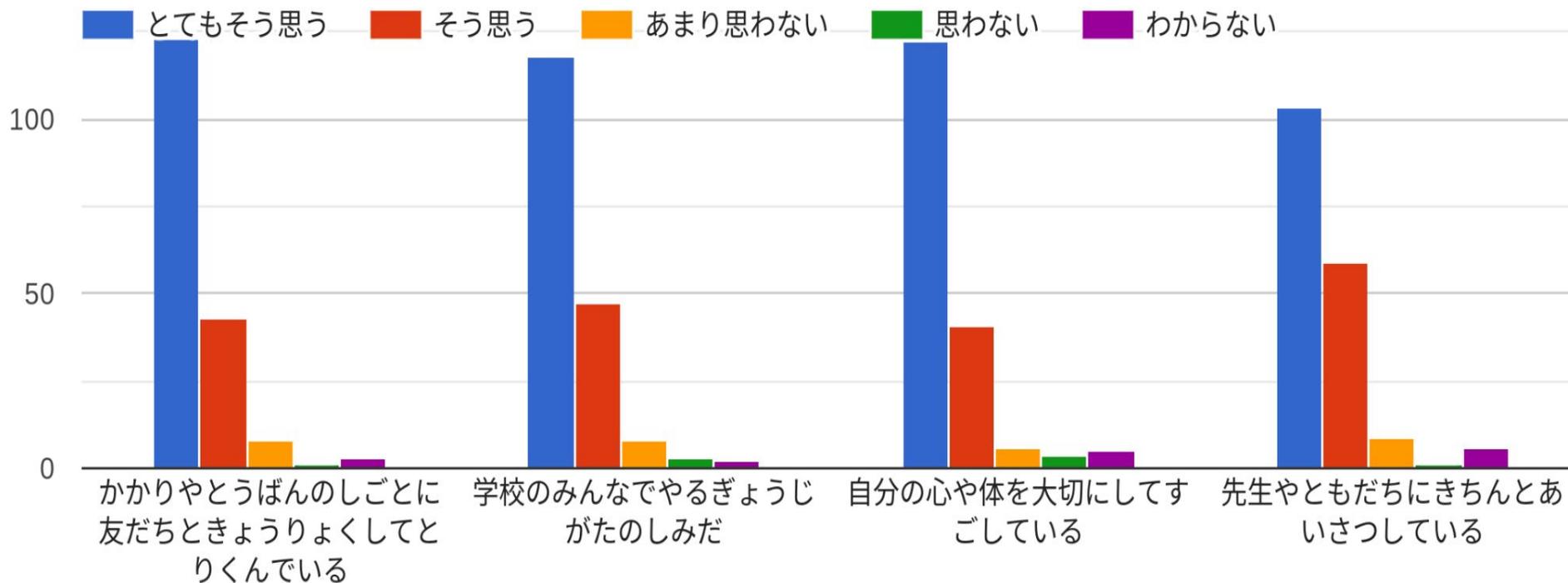
・友だちに対しては相手の良さに目を向けながら接することができる一方、自分自身のいいところに目を向けている子の割合は全体的に低い。謙虚さからとも思えるが、自己肯定感の低さが見て取れる。また、保護者は、自分たちの知る子どもたちの良さを子どもたちがわかっていないと感じている。教師や親など、大人が子どもたちの良さを積極的に認め、子どもたちに伝えていくことで、子どもたちの自己肯定感を高めていくようにしたい。

・学校のルールや決まりを守っているかについて、子どもと保護者はおおむね肯定的に捉えている。教職員も意識をして指導を行っているので、共通理解を常に図りつつ継続していく。

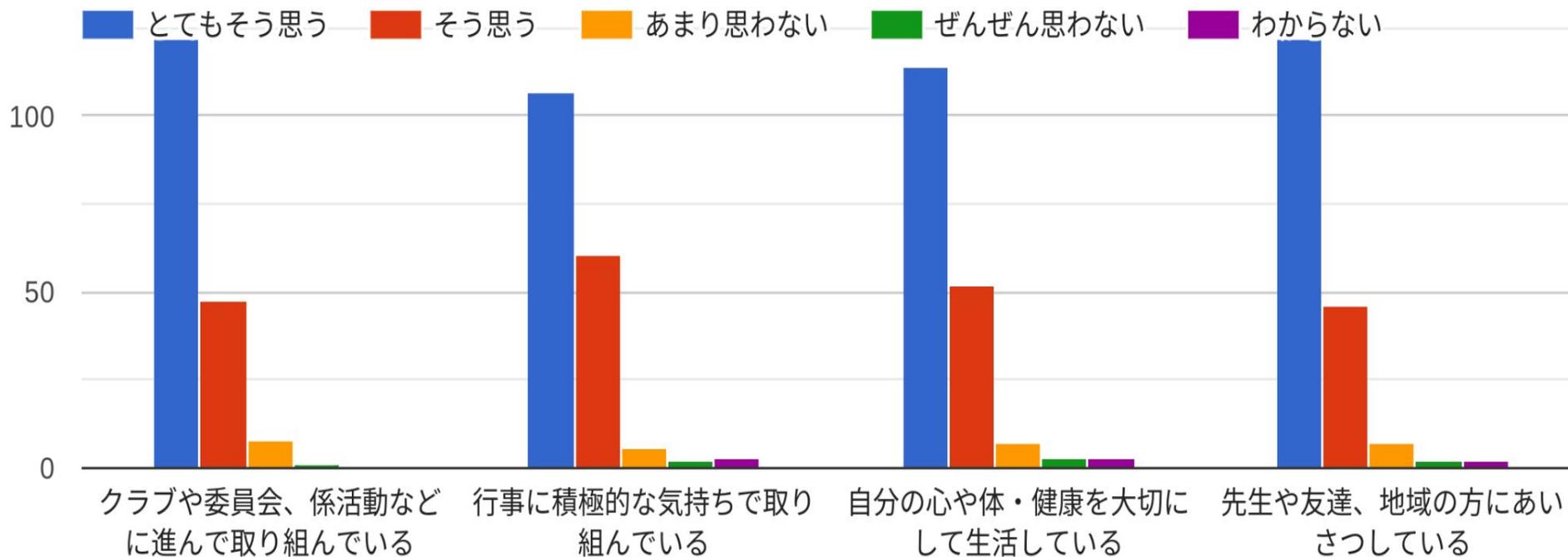


3. 豊かな心・健やかな体の育成について

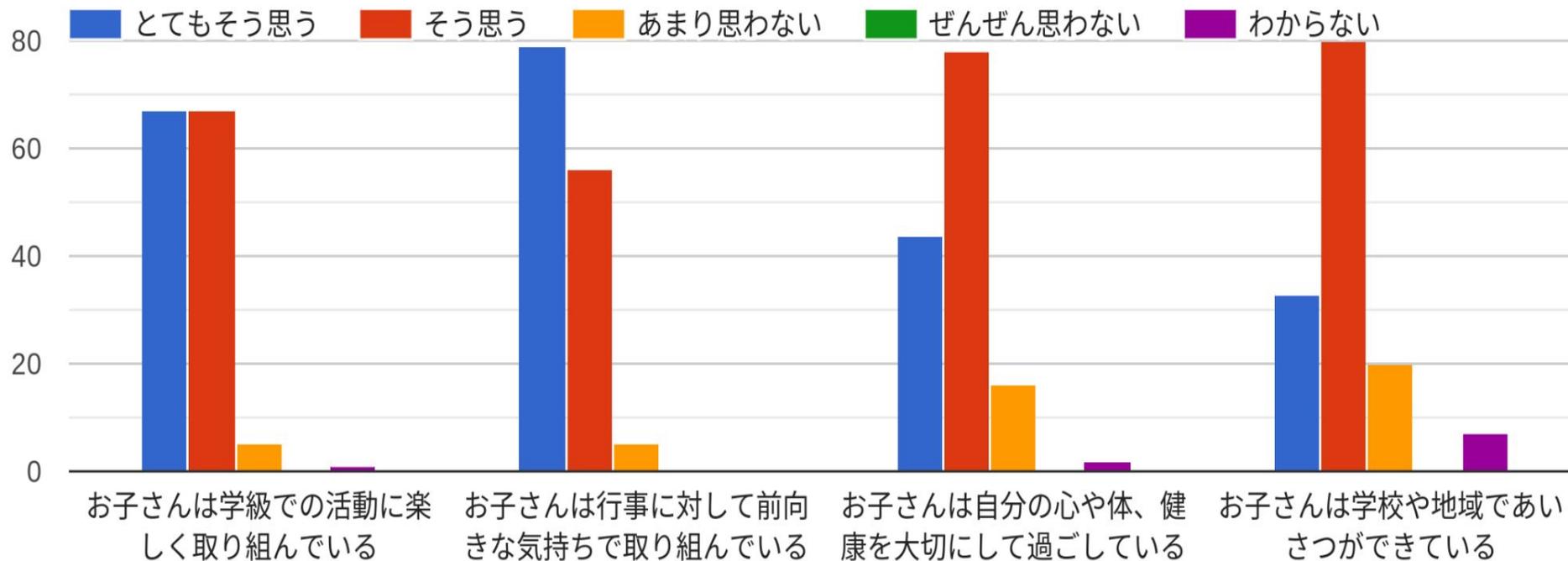
3 いろいろなかつどうについて（低学年）



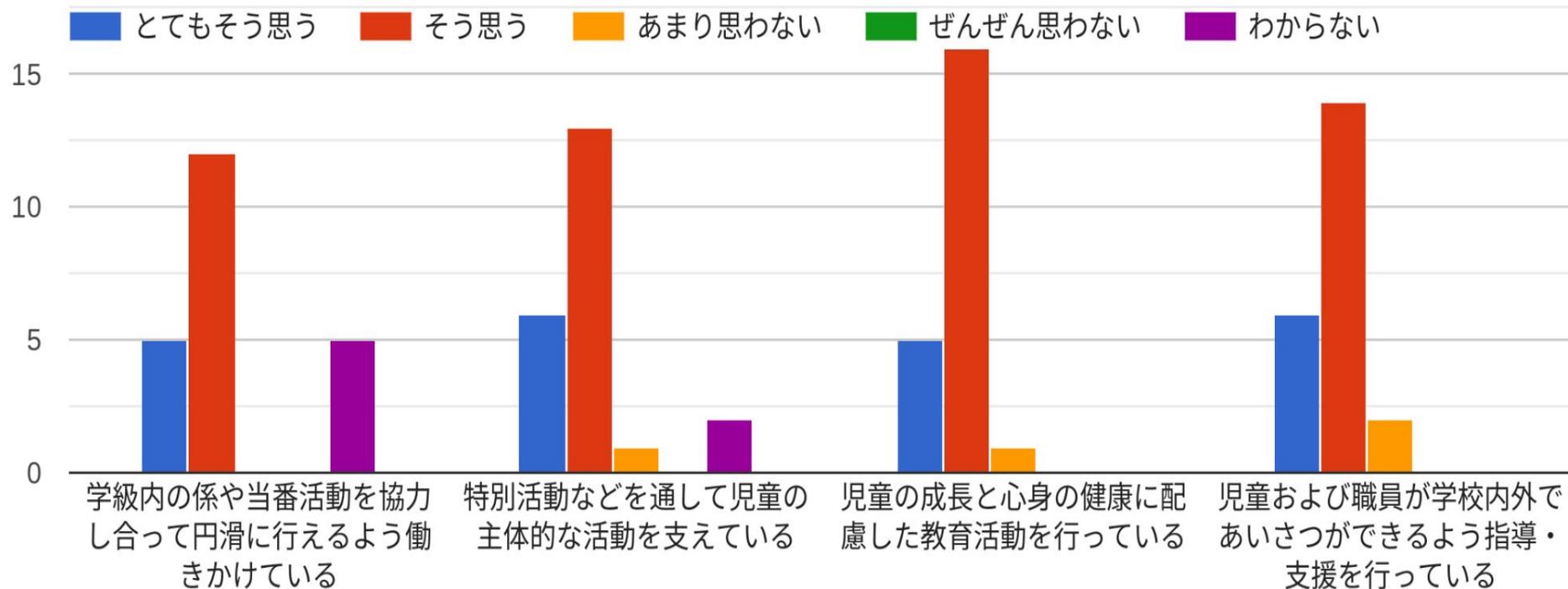
3 様々な活動について (高学年)



3 豊かな心・健やかな体の育成（保護者）



3. 豊かな心・健やかな体の育成（教職員）



3. 豊かな心・健やかな体の育成についての考察

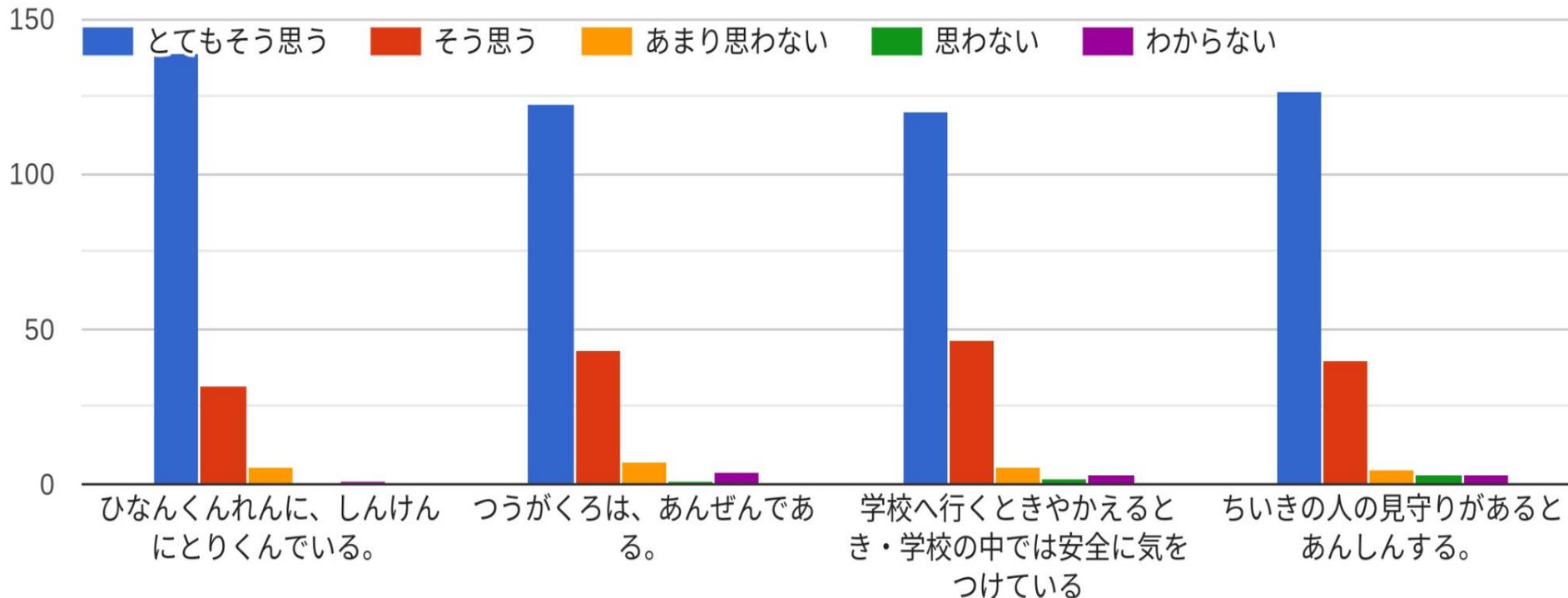
・児童会活動や学校行事については、ほとんどの児童が楽しく、協力しながら積極的に取り組んでいる。引き続き主体的な活動が行われるよう支援、工夫をし活動できるようにしていきたい。

・心や体、健康についてはおおむね肯定的回答であった。家庭と協力しながら自分の健康を意識し、健康で安全な学校生活が送れるよう根気よく取り組んでいくことが大切。

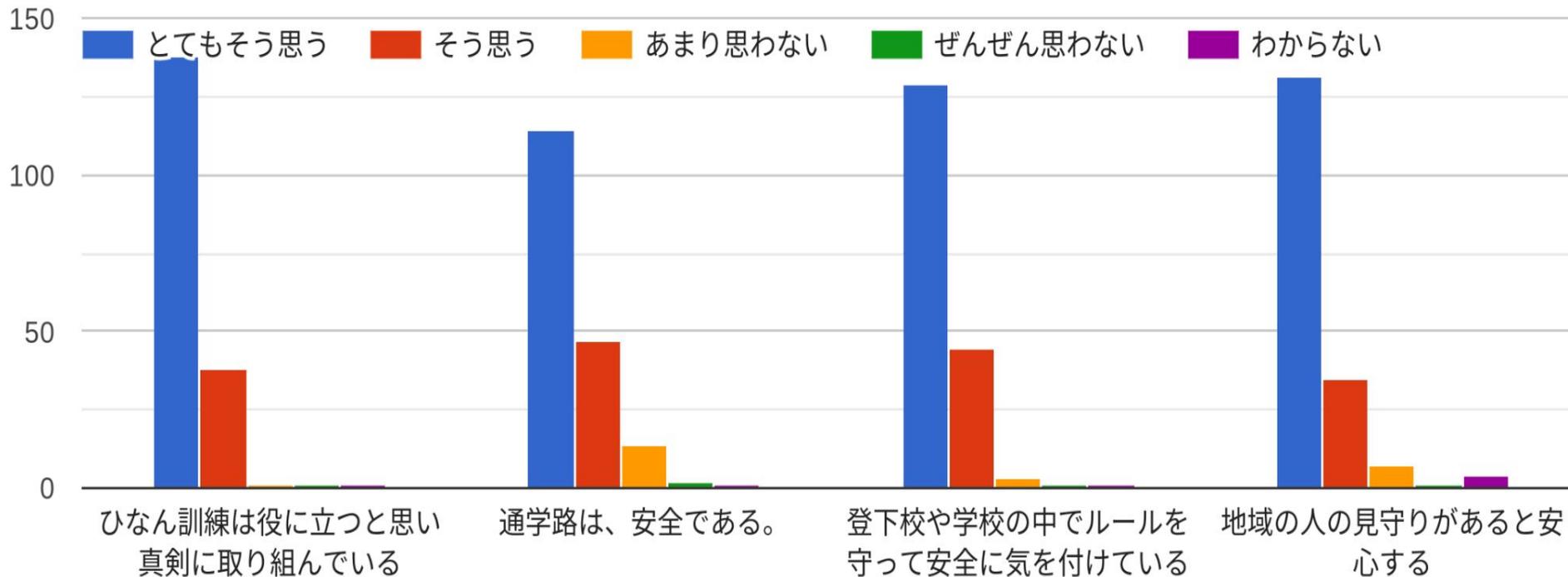
・先生や友だち、地域の方への挨拶は身についてきている。特に高学年の挨拶への意識が高い。若干保護者との意識の差がみられるが、いつでもどこでもすすんで挨拶ができるように取り組んでいきたい。

4. 開かれた学校・安全安心な学校について

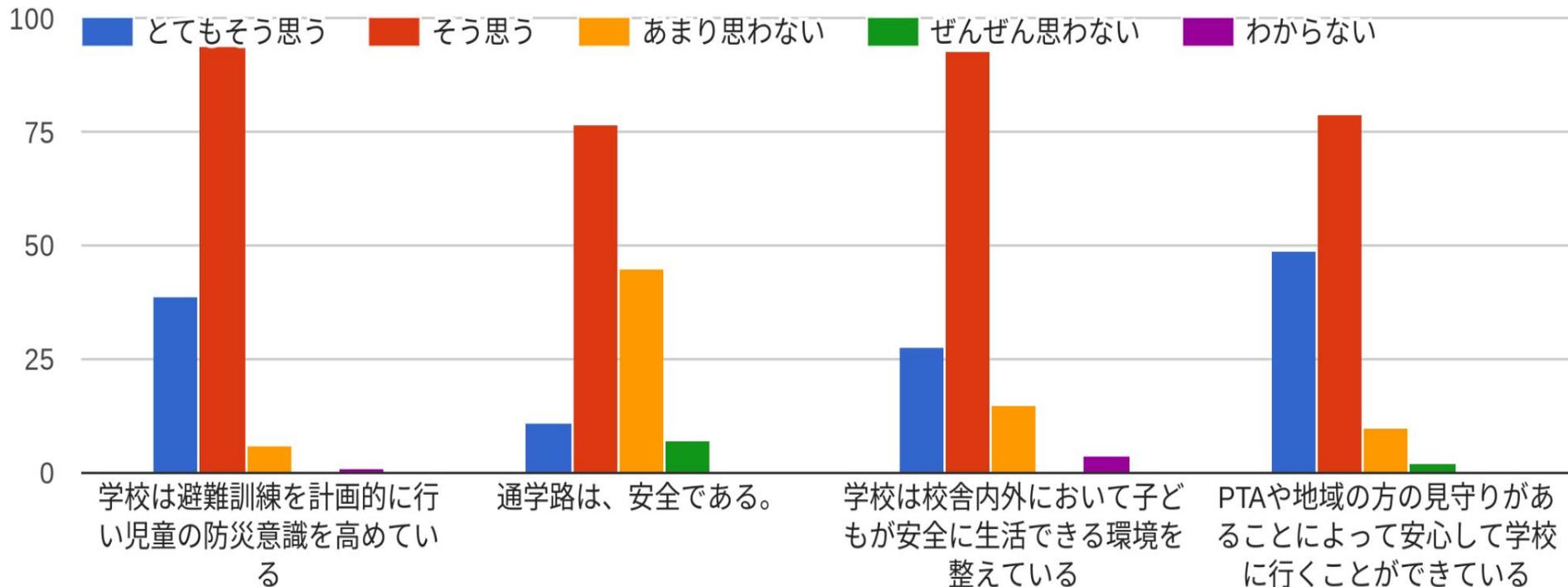
4 ちいき・あんぜん・あんしんについて（低学年）



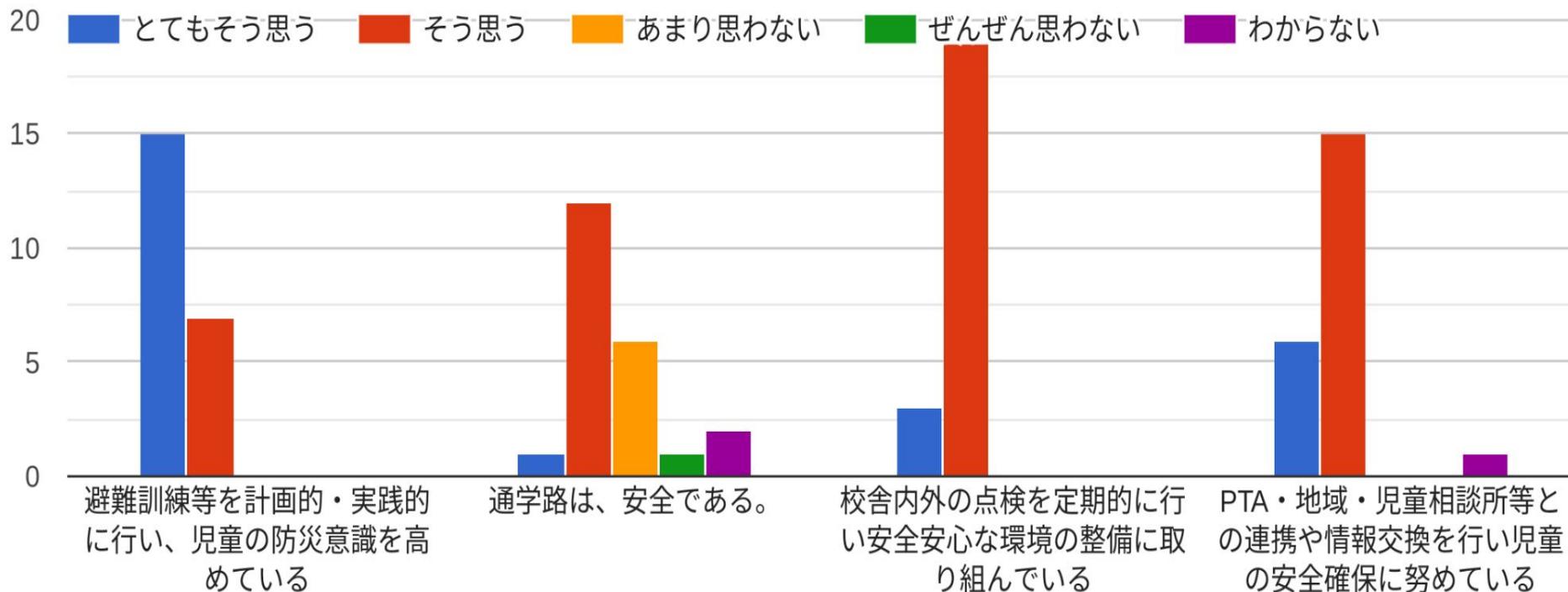
4 地域・安全・安心について (高学年)



4 開かれた学校・安全安心な学校（保護者）



4. 開かれた学校・安全安心な学校（教職員）



4. 開かれた学校・安全安心な学校についての考察

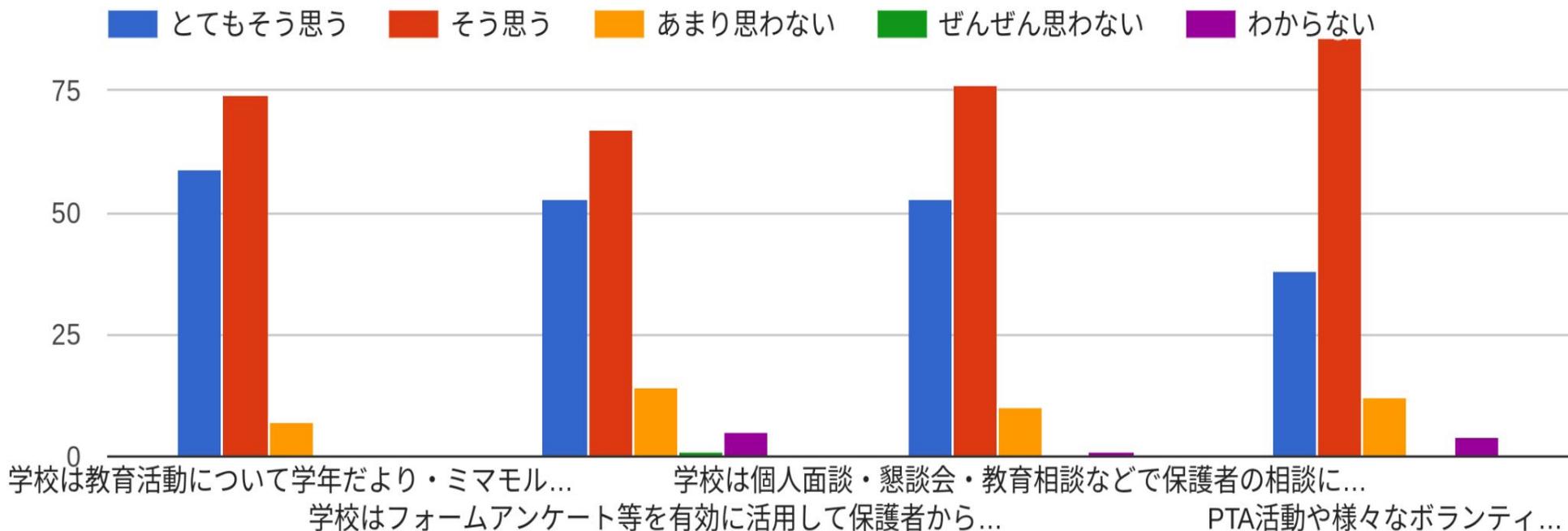
・避難訓練の実施について、児童・保護者・職員ともに肯定的な意見が多かった。特に児童は、低学年・高学年ともにほとんど「真剣に取り組んでいる」と回答し、防災意識の高さが伺える。

・通学路の安全について、ほとんどの児童が肯定的な回答をした。一方、保護者は安全に対して約3割が否定的な回答であった。理由としては、狭いうえに坂道が多く車の通行も多いことなどが挙げられる。今後は、行政によるグリーンベルトの整備や地域と連携して児童を見守る活動の充実が求められる。学校では、交通安全教室（毎年、1年生で歩行教室、3年生で自転車教室を実施）の継続と日頃からの安全教育が必要であると思われる。

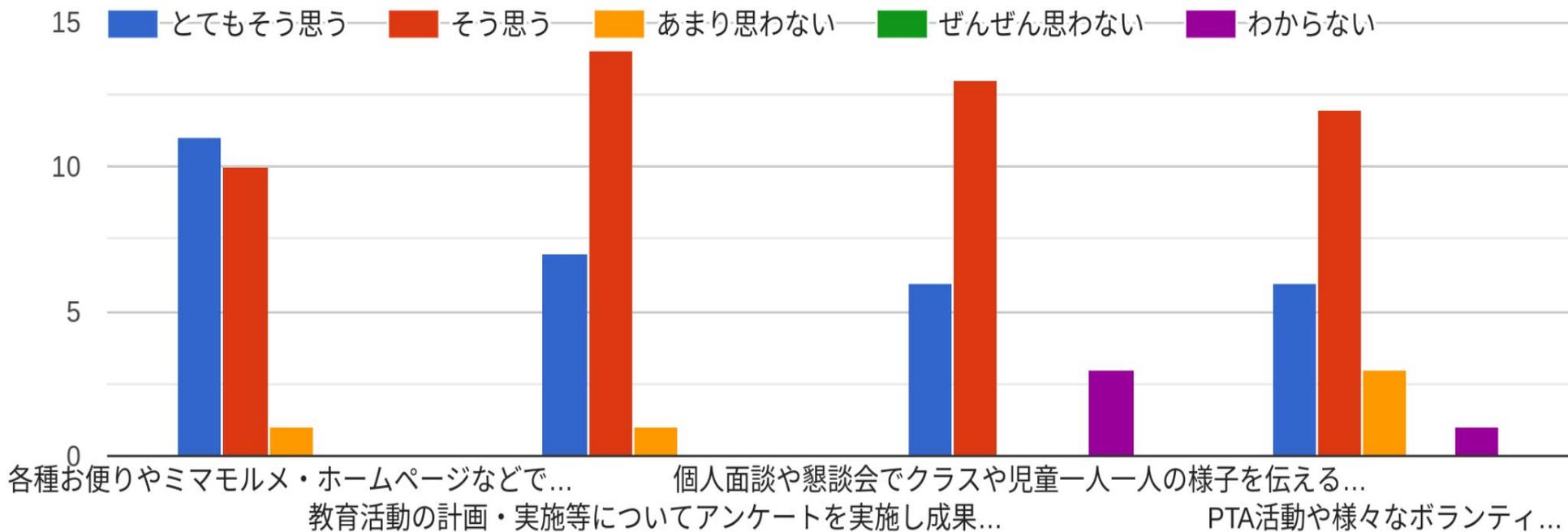
5. 情報発信・学校 と家庭の連携につ いて



5. 情報発信・学校と家庭の連携 (保護者)



5. 積極的な情報発信・学校と家庭の連携（教職員）



5. 情報発信・学校と家庭の連携についての考察

・ミマモルメやホームページを活用した情報発信については、保護者・職員ともに肯定的な回答が多く、デジタルを活用した情報発信が進んでいると言える。

・フォームアンケートを有効に活用した保護者からの情報収集については、概ね肯定的な回答だが、他の項目と比べると「あまり思わない」の回答の割合がやや高くなっている。アンケートの機会が少ないのか、内容の問題なのかは、定かではないが、学校教育に対する考えを伝えることができていないと感じている保護者が一定数いるということが言える。

・PTA活動やボランティア活動についての回答も含め、全体的に肯定的な回答の割合が高く、学校と家庭の連携がうまく取れていると考えられる。来年度はPTA係活動の在り方も変わるが、今後もより良い方法を模索し、互いに協力し合いながら、子どもたちのための活動に取り組んでいきたい。



ご覧いただき
ありがとうございました